

“ウイルスとワクチンの戦い” ~イングランドにおける”フリーダム・デー”の
延期と今後の見通し~ 2021年6月16日

関屋 宏彦*

ジョンソン首相は6月14日、イングランドで21日から実施を予定していた“フリーダム・デー”（ロックダウンを解除する最終段階である第4ステップ実施日）を7月19日まで延期すると発表した。5月17日から実施した第3ステップへの移行時点で既に懸念されていたデルタ株（インドで最初に特定された変異株）によって感染者が急増し（5月初旬比3~4倍）、今後、入院・重症化および死者の増加に繋がるリスクを抑える必要があると判断したもの。ロックダウン解除を待望する一部の保守党議員および業界団体等から批判の声があがっているものの、ジョンソン首相は、“ロックダウン解除を目指すロードマップは逆行させない（irreversible）”との強い決意で、フリーダム・デーを4週間延期する苦渋の選択を行った。

イングランドでは3月8日から段階的にロックダウンの緩和を開始し、5月17日から、パブ・レストランの店内でのサービス再開など、第3ステップの大規模な規制緩和策を実施し、社会生活および経済面で正常化に向け大きく踏み出している。当初の計画では、6月21日から、最終の第4ステップに移行し、全ての社会的接触や大型イベント・公演の制限の解除、ナイトクラブの再開など、殆どの規制を解除する予定であった。

“フリーダム・デー”を4週間延期する論旨は、次の通り。

1) 4つのモニタリング項目の動向

特に、新変異種のデルタ株がもたらした感染の急拡大への対応、およびそれに伴って入院患者および死者が増加するリスクと医療サービスへの負荷の見極めが必要と判断。

判断の前提になる4項目の現状は次の通り（データは、6月14日現在のイギリス全体）。

- ① **ワクチン普及状況**:第1回接種は全人口の62%、第2回接種は同45%に達した。今後、7月19日までに、対象となる18歳以上の成人全体(53百万人)への第1回接種を完了する計画。
- ② **感染抑制状況**:新規感染者数/日は、デルタ株による感染拡大によって、7~8千人/日と5月上旬比3~4倍に急増。1月のピーク、(70千人/日)に比べれば低位であり、また死者数/日はワクチン効果によって一桁に止まり(同ピーク時1,600人/日)、劇的な改善を見せているものの、イングランドにおける入院患者数/日は、6月14日現在、前週比50%増となり、今後の動向が懸念されている。なお、イギリスでは、ウィルステストを督励しており、一日当たり百万件のテスト実績をあげている点、日英の感染状況を比較するうえで留意が必要。
- ③ **医療機関の負担抑制**:低位に留まっていた入院患者数および死亡者数が、デルタ株の感染拡大によって増勢に転ずる兆しがあるだけでなく、長期間のコロナとの戦いによって、癌その他の治療が滞り、また、医療従事者の疲弊が懸念されている。
- ④ **変異株抑制**:デルタ株は、従来主流だったアルファ株(イギリスのケントで最初に特定された変異株)よりも約60%感染力が強く、現在、感染者の9割を占めることが確認され、ロックダウンの完全解除を進めるうえで、最大の攪乱要因となっている。

ロックダウンを開始した2021年1月以降のモニタリング指標の推移は下表の通りで、5月上旬

*在ロンドン、公益財団法人都市化研究公室 監事

までは、ロックダウンとワクチン普及の相乗効果が顕著に出ていたが、今後、第4ステップ実施を4週間延期した7月19日までの動向が注目される。

2021年1月～6月のモニタリング指標の推移（イギリス全体）

(カッコ内) は実施日	1月ピーク時 1月上旬	第1ステップ (3/8) 3月中旬時点	第2ステップ (4/12) 4月中旬時点	第3ステップ (5/17) 5月中旬時点	第4ステップ (延期) (6/21) 6/14時点
感染者数/日	70千人	6-7千人	2.5千人前後	2.2-2.4千人	7,742人
入院患者数	37千人	11千人	3.5千人前後	千人前後	1,089人
死者数/日	1,600人	200人	40人前後	10人前後	3人
ワクチン普及率(全人口比, %)					
第1回接種	2020/末, 1%	34%	48%	55%	62%
第2回接種	—	2%	9%	30%	45%

している一方、政府の首席医療顧問のウィッテ氏は、7月19日以降もCOVID-19のリスクが消滅するわけではなく、コロナと共存しつつリスクを管理可能とする規制と緩和のバランスの見極めが重要、と指摘しており、ウイルスとワクチンの戦いは当分、続きそうである。

(以上)

2) 入院患者と死者の増加を抑制するワクチン普及の加速

無症状の感染者が多く、活動が活発でウイルスの伝搬役となることが多い若年層へのワクチン普及が鍵となる。延期した7月19日までの4週間に；

- ・ 40歳以上に2回接種を完了させる。そのため、2回の接種の間隔を、従来の12週から8週に短縮する。
- ・ 18歳以上の成人全員に1回の接種を完了する。

3) ワクチンの有効性の検証と2回接種の推奨

感染拡大と入院・死亡の連鎖を断ち切るためには、ワクチンの有効性が鍵となる。6月14日にNHSが公表したデータによると、デルタ株に対して、1回のワクチン接種によって、Pfizerで94%、AstraZenecaで71%、更に2回接種すれば、Pfizerで96%、AstraZenecaで92%と高い有効率を示しており、ワクチンの2回接種が推奨されている。

(なお、ワクチンの効果とともに、その副作用の検証が注目されるが、この点は、2021年5月の拙稿の海外短信参照)

今後の見通し

ジョンソン首相は、6月28日頃に、上記の4つのモニタリング項目をレビューし、もし十分な改善が見られれば、7月19日まで延期したフリーダム・デーを前倒しして実施することもあり得ると